

## 校長室だより～和光高校今昔 第22号 H26.10.3

埼玉県立和光高等学校 校長 村田 進

### 文化祭のあゆみ

開校以来続く文化祭だがその形態は年により異なる。

そもそも開校初年度である昭和47年（1972年）11月10・11日の二日にわたり行われた、『文化部展示会』が和高文化祭の起源である。生徒数1期生の274名のみ、文化部と言っても書道・華道・英語・地学・写真・郷土研究の六部活の時代であった。

翌年から装いを改め、『和高祭』として、10月5日から体育祭・校内発表会・文化祭が三日連続で実施された。この時期はすべての行事が「初めて」実施されるわけで、生徒も教員も伝統の礎を築くためのスタイルが模索された。この年のテーマ「我らの道を求めて」と次年度のテーマ「創造の喜び」はまさにこのことを象徴している。文化祭テーマは、生徒総会で「あえて」決めなかった年もあれば、最初から不用と考えた年も含め以下のようにまとめられる。

年度		回	テーマ
昭和	47	1	文化発表会として実施
	48	2	我らの道を求めて
	49	3	創造の喜び
	50	4	時の流れを見つめて
	51	5	青春のイメージ！もしも翼があったなら！
	52	6	設定せず
	53	7	設定せず
	54	8	設定せず
	55	9	設定せず
	56	10	設定せず
	57	11	設定せず
	58	12	上昇気流
	59	13	クライミング
	60	14	設定せず
	61	15	設定せず
	62	16	センターオブカルチャー
	63	17	不明

平成	元	18	不明
	2	19	優れもの・取り扱い注意
	3	20	オープンザウィンドウ
	4	21	爆発寸前～和高ルネッサンス計画～
	5	22	かぎりなき野望(ゆめ)
	6	23	祭高傑作
	7	24	AIM THE BIG AND MAX
	8	25	地球・ガイア／命・未来・夢・平和
	9	26	Love&Peace
	10	27	ANNIVERSARY～みんなの記念日
	11	28	BIG SCALE BIG SCHOOL
	12	29	設定せず
	13	30	Toward The Future ～明日への扉～
	14	31	Dear Friend ～親愛なる友～
	15	32	Keep Your Good Friends ～思い出を大切に～
	16	33	Union Is Strength ～団結は力なり～
	17	34	One for all All for one ～絆～
	18	35	Welcome to わこう～出会い～
	19	36	設定せず
	20	37	和高で沸こう～わこっさい～
	21	38	騒げ楽しめ！和高祭09～不景気をふっとばせ
	22	39	ドラゴンフェスティバル
	23	40	さわげ！！和高祭～40周年だよ！全員集合
	24	41	ニュージェネレーションズ(新世代)～和高生よ革命を
	25	42	笑顔で始まり笑顔で終わろう
	26	43	はじける和高生！めくれ青春の1ページ！

この43年間の歴史に共通するのは、文化祭は常に生徒会が主催しているという点である。生徒会長を中心に、最大の行事としておよそ1年をかけて取り組む。役員が揃わず行事実施が危ぶまれた年もあったが、1回も欠けることなく継続していることは大いに評価されるはずだ。顧問も含め極めて過酷な条件下、相当の労苦を経ての結果だからだ。

生徒会機関誌「若樹」などからいくつかのエポックを見つけることができる。昭和56年から数年間はクラス対抗の「合唱祭」が付随していた。前日の予選から始まる大会は選曲からクラスごとの特徴が表れ、強かった吹奏楽部員などを中心にかなり高レベルな合唱

が披露された。当時人気者であったオースマン・サンコン氏を招き講演をお願いしたのは昭和63年のことである。開校2年目の和光国際高校に対抗し、国際化にむけての国語科岡野義彦教諭（現朝霞高校勤務）の熱心な出演依頼による成果と聞く。さらに、平成に入るとオープニングにおけるソーラン節と和太鼓が定着していく。



(右) サンコン氏と岡野教諭

(下左) ソーラン節

(下右) 和光太鼓

平成11年オープニングにて



また、「アーチ・壁画（模写絵）・モニュメント」の3つがシンボライズされながら文化祭の骨格を担うようになった。これは、昭和61年に始まる「龍神伝説」が発展継承されたものとする。菅原達志教諭（故人）の発掘した由来がこうしてモチーフとして採用され、現在でも和高祭マスコットキャラ「ひかりちゃん」としてしおりなどを飾っている。



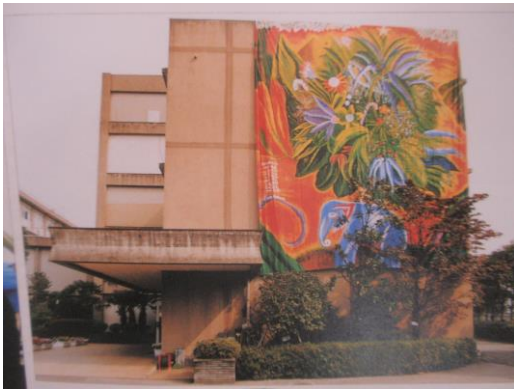
写真（上から）

平成3年度アーチ

平成4年度模写絵「南洋のクリスマス」

平成4年度モニュメント「伝説の龍」

ひかりちゃん



一方、文化祭の在り方自体を巡り、たとえば公開・非公開はかなり大きな論議を経ている。保護者のみ来場可とかチケット制導入など苦心の跡がうかがえる。後夜祭についても今では行われていないがかつては毎年のように論議を呼んできた。また、カラフルなポスターや工夫を凝らしたしおりなども秀逸な作品が残されている。前掲のテーマも含めその選定や制作はまさに時々の生徒会の力量を表したものであろう。生徒数の減少等により規

模こそやや小さくなったもののこのように文化祭は「今」に繋がっている。今年のテーマが示す通り、和生誰もが、文化祭を通してきらめく青春の1ページを紡いできたのだ。特に卒業生の皆さんやご尽力いただいた旧職員の方々には、昔日の青春時代を思い出していただきたく御来校をお待ちしています。

